



ご挨拶

中津川市選挙区は県下で一番の激戦区といわれておりましたが、皆様のご支援のお陰をもちまして、3度目の当選をさせていただくことができました。心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

東日本被災地支援とともに、我が国の経済や政治状況は依然として厳しい状況に置かれています。しかしながら被災地復旧に寄せる国民の思いは、日本国民としての誇りと自信を取り戻す勇気と力を与えているものと信じています。今こそ被災を受けなかった地域が地域の特性を伸ばし、活力を増し立ち向かっていかなければなりません。中津川市民の皆様も官民挙げての支援をしていただいております。その意識と意欲の現れであると中津川市民の心意気に感謝しております。

このような中、現状改善と希望の持てる明るい社会の実現を目指し、わたくしも県議会議員としてふるさと岐阜県と中津川市の発展のため、豊富な地域資源を活かしたリニア停車駅にふさわしい元気あふれる地域づくりに取り組んでまいります。

今後も、初心を忘れず、「感謝と思いやりの心」を大切に、全力を尽くしてまいりますので、変わらぬご支援とご指導ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。



平岩正光事務所

〒508-0012 中津川市津島町1-25 TEL 0573-65-7511 FAX 0573-65-7512

平岩正光ホームページアドレス <http://hiraiwa-masamitsu.seesaa.net/>

「県政報告ブログ」で検索してご覧下さい。

『今回の4月統一選挙を振り返って』

平岩正光 選対本部長 三尾義彦



4月10日投票日の県議員選挙は、前回と違い民主党から富士通テンの島田市議が、今井候補に代わって立候補され、自民党から前県会議長の要職を立派に果たされた早川県議と、三期目挑戦となる平岩県議の三つ巴選となり、私として平岩後援会長の立場からも大変に危機感を持って選挙戦に望みました。3月3日の事務所開きから、『酒井公雄、原保治郎、平岩正光の今まで40年間に渡る県政とのパイプ役を中津川市から消すな』を合言葉に選対を組み、全員一丸となって頑張ってきましたが、平岩後援会名簿の収集状況

では前回よりも5,000人近く少なく、とてもこのままでは当選はおぼつかないと私自身覚悟しておりました。しかし、若手を中心とした選対本部も各地区の後援会も前回以上の盛り上がりがあり、特に平岩県議の過去の市議時代、県議時代の16年に渡る地道な政治活動のおかげで、取り立て厳しい批判もなくこれが本当ならば何とかなるのではと思っていました。

私自身も過去に色んな選挙に携わってきましたが、選対本部長は初めての経験であり、吉川副本部長をはじめとする本部役員、各地区役員、企業、団体や、増田さんを中心とする女性部グループ、青年部など皆様全員が奮闘し、64票差で勝つことができました。全く思いのよらない結果となりました。

心から皆様に感謝申し上げます。

また、先日中津川市にリニア新幹線の停車駅とその修理工場が中津川西部にできるとの発表がありました。その為にはどのような街づくりを考えるのか、まずはマスタープランを作り、それに従ってアクセス道路や駅前駐車場、公園、公共施設を考えていかなければなりません。今、一番大切な時期を中津川市は迎えています。市民として将来の中津川市をどの様にしていくか、真剣になって考えていく必要があります。市と県と国のパイプをより強くしていく必要があります。私ども自民党中津川市支部は、一丸となって新時代に向かって前進しましょう。

平岩県議の益々の活躍をお願いしまして私の所感とします。



県政報告会



活動報告

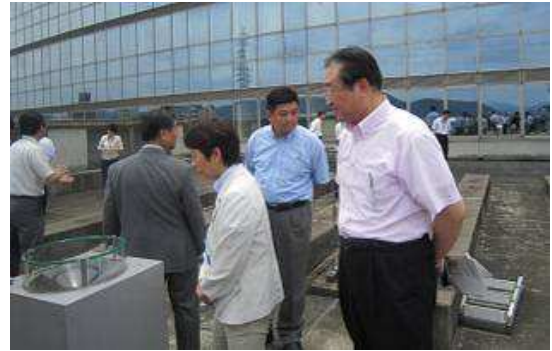
厚生環境委員長就任

当選後の委員会所属を決める5月10日に開催された臨時議会において、**厚生環境委員会委員長**に就任いたしました。教育・警察委員長、農林委員長に引き続き3年連続で常任委員会の委員長を拝命することになりました。厚生環境委員会は、医療・介護・福祉・子育て支援・環境など県民福祉に直接かかわる、守備範囲の広い分野ではありますが、頑張っております。

特別委員会につきましては、昨年同様、まちづくり・観光・産業振興などを調査内容とする**産業振興・まちづくり対策特別委員会**に所属しました。



6/13 視察 カルビー(株)各務原工場
食品衛生法対象施設



岐阜県保健環境研究所
環境放射能調査の概要

リニア中央新幹線

6月7日にJR東海より発表されたリニア中央新幹線の間駅候補地として、中津川市西部と発表されました。同時に車両基地も候補地となりました。もちろん単なる停車駅という問題ではなく、どのように東濃地域はもとより岐阜県および周辺地域の発展につなげていくのか、いよいよ広域のまちづくりの在り方を具体的に進める時が来しました。

岐阜県の人口は2005年の210万人をピークにリニア開業予定時の2027年には2005年と比較すると32万人減の178万人に、高齢化率は21%から30.9%と推測され(岐阜県人口・少子化問題研究会推計)、人口減少・少子高齢化が急速に進展し、経済成長の鈍化が懸念されます。さらに岐阜県では20代を中心とする若者が、就学・就職・結婚のために他県への流出傾向がみられ、労働人口の減少も予想されております。このような中、リニア開通後、東濃地域と首都圏が最短で40分程度で結ばれれば、国土の中央に位置する東濃および岐阜県の地理的優位性と、移動時間の短縮により、豊富な地域資源を活用した観光や、移住・定住・二地域居住、ものづくりの集積地としての強みを活かし、新たな産業の創出や交流人口の増加による地域振興や雇用拡大などが期待できます。東濃を核として人口減少社会に歯止めをかけ、さらに活力あふれる地域づくりを目指し、皆さんと力を合わせて取り組んでまいります。



リニア期成同盟会 於：東京(5/31)



岐阜県期成同盟会 於：中津川(6/9)

震災対応について

◆岐阜県議会震災総合対策議員連盟

県議会においては、今後発生が予想される東海・東南海・南海地震が発生した場合の被害を適格に想定し、災害対策および被災地の復興に関する調査・研究・情報交換をおこなうことにより、県民の生命と財産を守り、安心して暮らせる岐阜県づくりに全力を挙げて取り組んでいくため、「**岐阜県議会震災総合対策議員連盟**」を立ち上げました。また、これまで私たち議員も義援金をはじめ、東日本大震災復旧支援のため個々に現地に出向いて、ボランティアや現地視察を行っております。

◆東日本大震災宮城県仙台市、石巻市被災地視察

災害直後からの対応や復旧状況の調査のため被災地を訪問しました。



6月1日 仙台市街地と港周辺視察

私の仙台市在住の友人に被災直後の様子や復興状況を聞きながら現地を案内していただきました。仙台市内は通常通りの活気ある様子でしたが車で15分ほど港へ向かって走ると様子が一変していました。(写真 左)

6月2日 石巻市役所訪問・現地視察

石巻市役所を訪問し、建設部道路課長から説明を受けました。地震だけでの建物倒壊は少なく津波により被害が甚大になった。震災直後は市役所周辺も1メートル強浸水したためカヌーで調査に出かけたり、幹線道路は津波で流された家屋や車で道が塞がり、救援や復旧のために、徒歩で対応できる建設業者を捜し道路啓開を依頼した。自衛隊が震災の翌日から道路啓開と人命救助、捜索に当たってもらった。今回の被災による瓦礫は石巻市の100年分に相当する618万トン位出しており、撤去および搬出が課題であり、その他今後の取り組みについて話を伺った後、現地を視察しました。昨年農林委員会で合板工場を視察しているので、工業地帯、漁港の街並みなど、賑やかで活気に満ちた光景が記憶に新しく、街並みが一変した津波の脅威に愕然としました。

犠牲になった方々のご冥福と被災に会われたすべての皆様に心からお見舞い申し上げ一日も早い復興を願って視察を終えました。



缶詰工場の広告塔



市営球場が自衛隊基地に



後方は石巻市民病院